

2019年 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟

合同開会式

日 時 : 平成31年2月17日(日)9時～

場 所 : G7スタジアム神戸

主 催 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟

後 援 神戸新聞社
ナガセケンコー株式会社
ダイワマルエス株式会社

協 賛 須磨区役所
オリックス野球クラブ株式会社
日本女子プロ野球機構
川辺スポーツ

日時:平成31年2月17日(日)9時～

場所:G7スタジアム神戸

1. 選手集合 8時00分
2. 選手入場 9時00分
3. 開会宣言 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 副会長 綿貫 功一
4. 国旗・連盟旗掲揚
5. 前年度 優勝旗・優勝杯・準優勝杯の返還並びにレプリカの授与
 春季大会兼あかふじ米予選
 優勝:宮川少年野球部 準優勝:白川ホーネッツ

 KSBL夏季大会
 優勝:南落合BBC 準優勝:白川ホーネッツ

 KSBL秋季大会
 優勝:白川ホーネッツ 準優勝:花谷少年野球部
6. 挨拶
 - ①主催者挨拶

○西神戸須磨軟式少年少女野球連盟会長	山里 勉
○西神戸須磨軟式少年少女野球連盟理事長	志賀 久高
 - ②来賓挨拶

○須磨副区長	下田 祥平
○オリックス野球クラブ株式会社	小浜 裕一
○全神戸軟式少年野球連盟 理事長	丸毛 明
○神戸新聞社	入江 智美
○衆議院・兵庫県議会・神戸市議会	代表
○株式会社MAC17	マック鈴木
 - ③来賓紹介
7. 審判長訓示 大会審判部長 光辻 慎二
8. 選手宣誓 宮川少年野球部 主将 岡 大地
9. 始球式 投手:関先生 捕手:小浜副部長 打者:下田副区長
10. 閉会の言葉 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 副会長 三田 謙二
11. 選手退場

西神戸須磨軟式少年少女野球連盟
KSBL
春季大会会長杯あかふじ米予選会
大会規定

2019年2月23日改定

(改定箇所赤字表記)

西神戸須磨軟式少年少女野球連盟
春季大会会長杯あかふじ米予選会大会規定

本規定は西神戸須磨軟式少年少女野球連盟が神戸市内に居住する小学生を基本に、健全なる体育活動と交歓親善を通じて、広く友情の輪を広げることを目的として、本連盟が開催する各種大会の円滑な運営を図るため、連盟役員をはじめ、関係者及び加盟各チームが相互に確認のうえ、厳守する事項として設ける。

1. 大会参加資格と選手登録

- (1) 連盟規約第6条による神戸市内に居住する小学生を基本として、規約第8条により所定の手続きをもって登録を完了したチームとする。
- (2) 登録選手は、連盟規約第6条の条件を満たしたものとする。
- (3) チームの登録は、指導者5名以上・選手は9名以上で構成するものとする。選手は20名以内を基本とするが、6年生のみで構成する場合は20名を越えて追加登録を認める。

チーム選手の背番号は、0番～27番、33番～99番とし(一部のみ主将は10番とする)
指導者の背番号は28番～30番までとし、監督は30番とする。

- (4) 参加チームは、選手登録書は大会期間中、必ず持参しなければならない。

※トーナメント戦では選手登録書はメンバー表のこととなる。

但し、開会式、閉会式にはチーム旗、プラカードは必ず持参しなければならない。

【注】選手登録書については、春季リーグ戦のみ必要とし、トーナメント戦採用大会では選手登録書を必要としない。

- (5) 選手登録用紙には必ず「学校行事の日程」「主将にはふりがな」を記入すること。
組み合わせ終了後の変更は原則として認めない。

- (6) 選手の追加登録・変更は、開会式までに事務局長に連絡し承認を得ること。

【注】大会開催中の場合は、追加登録・変更は出来ない。但し、特別な場合は事務局長に届け出て、さらに会長、副会長、事務局長の承認が必要である。よって、選手の追加登録・変更が認められない場合がある。

2. 大会必要経費の分担

大会に必要な経費は、参加チームが分担する。

3. 試合要領

(1) ルール

全神戸軟式少年野球連盟ルール、全軟連競技者必携及び公認野球規則を準用する。

(2) 球場概要

- ・フェアグラウンド内の距離は、基本として本塁より 60m 以上の範囲とする。
但し球場条件にあわせて決める（各球場共フリーを原則）

投手と捕手の距離は 16m で塁間は 23m とする。

ジュニアは投手と捕手の距離は 14m で塁間は 21m とする。

- ・ホームベースは一般用(43.2 cm)を使用する。
- ・その他、グラウンド特別ルールを決めて行うが、グラウンドルールは担当チームが作成し審判部に届け出たものを各チームに配布し、試合会場本部に設置しておく。

(3) 使用球

連盟が指定する大会指定球とする。

(4) 投手のグラブの規格について

投手用のグラブは縫い目、しめひも、網を含む全体が一色であることが必要で、しかもその色は白色、灰色以外のものでなければならない。

(5) 投手の練習投球数

投手の投球練習は、初回は 7 球、投手交代時は 5 球、2 回以降は 3 球を原則とする。

なお、試合進行の都合により本部又は審判員の判断により練習投球数を減らすことができる。

(6) 試合時間

① **85分** を限度とし新しいイニングには入らない。

但し、トーナメント戦採用大会の優勝戦については 7 回まで行い、**2 時間** を限度とし新しいイニングには入らない。

② 最長 7 回まで可能とする。

(7) 延長戦

延長戦はない。

但し、トーナメント戦採用大会では、時間限度回及び 7 回終了時同点の場合、ノーアウト満塁方式を採用する。

【補足】ノーアウト満塁方式とは…

ノーアウト満塁で**選択打順**より攻撃を行い、前打者 3 名が順次塁を埋める。

(8) コールドゲーム

- ①降雨・日没などにより試合が続行できないと審判員が判断した場合は、4回終了後であれば、コールドゲームを適用する。4回を終了していない場合は、再試合とする。
- ②得点差によるコールドゲームは、4回終了時10点差、5回以降は7点差をもって成立させる。
但し、トーナメント戦採用大会の優勝戦については、得点差によるコールドゲームは適用しないが、降雨・日没などによるコールドゲームは適用する。

(9) ロージンバックの使用

- ①ロージンバックを使用する投手は、投手板後方に置くこと。
- ②ネクストバッターサークル内には、守備側チームは置かないこと。

(10) 防具の使用

- ①選手の安全確保のため打者・走者・ベースコーチは両耳付のヘルメットを常時着用すること。
- ②捕手はプロテクター・レガーズ・ヘルメット・ファールカップ・マスク（スロートガード付）を着用すること。（ブルペンで投球練習を受ける時も着用しなければならない）

捕手はベンチを出るときからマスクをつけること。（代わりの捕手も投球をうける場合はマスクを着用しなければならない。）

但し、ヘルメットとマスクが一体型の物は、使用を禁止する。

※シートノック時も、捕手はプロテクター・レガーズ・ヘルメットを着用し、ノッカー補助につく選手についてもヘルメットを着用しなければならない。

(11) ユニホーム・シューズ・手袋

- ①原則としてチームで統一したユニフォームを使用し、背番号をつけること。
- ②運動靴、ゴム製ポイントシューズ、セラミックスパイクとし、金具製スパイクの使用は禁ずる。ポイントシューズ・セラミックスパイクは、球場により使用を認めない場合がある。
- ③手袋は全ての色を認める。

(12) バット

軟式用金属バット（一般用も）及び木製の使用を認める。

(13) 集合時間

- ①試合開始時刻 30分前までに球場に集合を完了し、チーム登録用紙・自チーム分を含みメンバー表4通（フルネームとふりがなを記入すること）を持参して監督（代理監督）は、主将（代理主将）と一緒に本部席に届け出ること。
- ②試合開始時刻になっても集合しないチーム・指導者のいないチーム・選手が9名そろわないチームは棄権とみなし相手チームの不戦勝とする。
※不戦敗（棄権）の場合、スコアは7対0とする。

(14) 先攻・後攻の決め方とベンチ

- ①主将のジャイケンで決める。
- ②ベンチは、リーグ戦、トーナメント戦とも、組み合わせ番号の若番が一塁側とする。
【注】但し、グラウンドを提供したチームには、ベンチの選択権がある。

(15) タイム

タイムは45秒以内とする。但し、審判員が認めた場合はこの限りでない。
攻撃側・守備側のタイムは各3回以内とする。(5. 試合運営・その他(10)参照)
尚、試合進行上不必要と思われるタイムは認めない場合がある。

(16) シートノック

- ①試合前のシートノックは4分間とするが、大会運営上短縮、又は認めない場合がある。この場合は、原則として攻守決定の際に知らせる。
- ②試合前のシートノッカー・ノッカー補助(外野のみ)は3名までとし28,29,30番の背番号ユニフォームを着用した指導者のみとする。
但し、フェアグラウンドには入れない。

(17) ベンチ入り人数

- ①指導者は、監督、スコアラーを含み6名までとする。(救護係1名を含む)
ユニフォーム着用は3名までとする。(監督30番、コーチ28、29)
- ②選手は登録されている者のみがベンチ入りできる。

(18) 指導者の服装

- ①ユニフォームと、指導者にふさわしいチームで統一された服装とする。
- ②サングラスの使用は差し支えない。

但し、プレイに必要な無い以下の時はサングラスを外さなければならない。

- 1 試合開始や終了挨拶の時
- 2 監督又は監督代行が、選手交代を審判員に告げる時
- 3 監督又は監督代行が、タイムをかけて選手に指示を出す時

【注1】ミラー式のレンズは禁止とする。

【注2】サングラスを帽子の日除(ツバ)部分に引っかけたり乗せたりして、ベンチに入ることは出来ない。

- ③携帯電話は、ベンチ内の持ち込みは禁止する。
- ④審判服装でのベンチ入りは認めない。

【例】ズボン=紺又は黒、グレー色系統とし、裾の絞ったズボンは認めない。

上 着=白色のポロシャツまたはTシャツとするがチームで統一したジャンパー等の着用は構わない。

(19) かくし球・変化球

- ①かくし球は認めない。
- ②変化球は認めない。又、変化球に対して「ボール」を宣告する。

【詳細はKSBLホームページを参照】

(20) 抗議権

- ①ストライク・ボール、アウト・セーフの判定に対する抗議は一切認めない。
- ②ルール上の抗議権を有する者は監督（代理監督）のみとし、他の指導者の抗議は一切認めない。（罰則規定を受けた監督の代理監督には抗議権はない）
- ③抗議のあるときはタイムをかけた後、審判員の許可を得たときのみベンチを出ても良いが、許可無くベンチを出てはならない。
- ④四氏審判員で討議して裁定を下した後の抗議は一切認めない。

(21) 指導者がベンチを出られるとき

- ①試合前のシートノック。3名までとする。（但し、28,29,30番の背番号ユニフォームを着用した指導者のみとする）
【補足】ノッカーとノッカー補助に限る。（投球等練習の捕球役は認めないが、選手の安全面を考慮し本部が許可する場合がある）
- ②攻撃時の打者への監督指示は、タイムをかけて本塁とベンチの中ほどで指示する。
- ③守備時の投手への監督指示は、ファールライン付近で指示する。
- ④選手交代通告。選手交代はベンチ前で球審に報告するが、一度に3名以上の選手交代をする時は、所定の用紙で報告する。
【補足】喫煙のためベンチを離れると、その試合中再びベンチ入りすることが出来ない。

(22) 審判員と記録係

- ①審判は相互審判とし、各チーム審判員2名を選出する。
- ②審判員は、担当試合30分前までに、本部前に集合、打合せること。
- ③後審判員は、試合終了後すみやかに、本部前に集合、打合せること。
なお、基本的に本部記録員1名は当該試合チームより選出する。
- ④各球場で試合を行った実行委員は、試合結果を当日の出来る限り早めに実行委員長まで連絡する。なお、本部記録員は本部用具を常に携帯すること。
- ⑤勝者チーム（若番チーム）は、球審と二塁の審判員。
敗者チーム（後番チーム）は、一塁と三塁の審判員。

	第①試合目	第②試合目	第③試合目	第④試合目	第⑤試合目
3試合のとき	第③が	第①が	第②が	第④が	第⑤が
4試合のとき	第②が	第①が	第④が	第③が	第⑤が
5試合のとき	第③が	第①が	第②が	第⑤が	第④が

- ⑥都合により代理審判員を立てる時は、事前に球場本部に連絡し了解を得ておくこと。（各チーム共審判員としてふさわしい者を審判員として選出すること）
- ⑦審判員は、シートノック中に両チームの用具を点検し、違反があれば取り除き本部席で試合終了まで保管管理する。又、指導者に確認させる。
- ⑧実行委員会又は審判部が、審判員を指名し試合を行う場合がある。

(23) 審判員の服装

- ・上着 リーグ指定の長袖・半袖審判服とする。
- ・ズボン 黒、グレー、紺色とする。
- ・帽子 審判帽子とする。
- ・靴 特に指定なし。

【注】変更がある場合は審判部長より通達をする。

(24) 選手の試合中の負傷

- ①選手が試合中の負傷等で、治療が長引く場合は、「コーティシーランナー」ルールの適用を認める。
- ②守備側チームの選手が負傷した場合は、3分を限度として治療を認め、それ以上は交代を促す。

4. 大会運営

開会式・閉会式及び試合運営は実行委員長の指示により各実行委員がその役割を分担する。

(1) 担当球場で行われる試合の運営及び記録の集計と報告。

(2) 日程変更及び雨天中止の連絡。

雨天の場合は、実行委員長から連絡のない場合は試合が行われると考え、必ず球場に集合すること。

(3) 試合日程と組み合わせの月間予定を作成するが、学校行事を考慮して実行委員会で調整はする。但し、学校行事は必ず事前連絡すること。

複数校にて編成されたチームの場合は、学校行事で選手が抜けた後 10 名以上の選手がいる場合は日程調整の対象としない。

(4) 連盟が主催する各大会の開会式には、「愛の灯募金」に寄付する。

封筒にチーム名と金額を書いて寄付する。

(5) 試合会場設営のために利用チームは、第一試合の 60 分前に会場に集合する。又、当日最終試合終了後は、後片付けも行う。

但し、1 会場で 4 試合行う場合は、第一・二試合チームの指導者が設営を行い、第三・四試合チームの指導者は後片付けを行う。

【補足】学校等使用の場合は、担当チーム代表者の指示に従う。

(6) リーグ戦の順位決定は、以下のとおりとする。

①勝利を3点、引分けを1点とする勝ち点方式とし、勝ち点の多いチームを上位とする。

②勝ち点と同じ時は、総失点数の少ないチームを上位とする。

③勝ち点及び総失点数が同じ時は、総得点数の多いチームを上位とする。

④①から③までの方法で順位が決定出来ないときは、リーグ戦で直接対戦した勝者チームを上位とする。

⑤①から④までの方法で順位が決定できないときは同位とする。但し、1位から3位までの場合及び春季リーグで全神戸選抜大会出場チームを決定するために必要な場合は決定戦をする。

【注】決定戦チームが3チーム以上になった場合は抽選にてトーナメント順を決定し決定戦をする。

5. 試合運営・その他

(1) 本連盟主催の大会における各チーム代表者(理事)は、各チームの試合会場に常駐することを原則とする。

(2) 本連盟の主催する大会において、各チームの選手管理は、各チームが責任を持って当てること。万一、不測の事故が発生した場合、連盟として応急処置はとるも以後の治療・補償はしない。

(3) 本連盟の主催する大会において、試合中に球場周辺の物品に損害を与えた場合、当該チーム代表者が弁済交渉に当たること。

(4) 攻守交代は監督責任で全力疾走させること。

(5) ファールボールはベンチ側が処理すること。

(6) 本盗は、認めるが監督申し合わせ事項として極力避ける。

(7) 審判員に対する「給水」の提供は、10月から5月までの期間は、3回終了時は1塁側チームで、試合終了時は3塁側チームで段取りし、本部席前に運ぶ。6月から9月までの期間は本部に任せるが、原則として2回・6回終了時は1塁側チームで、4回・試合終了時は、3塁側チームで提供する。

*天候、気象条件によって変更される場合がある。

(8) 試合前後は、両チームの指導者でグラウンド整備を行う。

(9) ボークについては、ジュニアには適用しない。注意はする。

(10) タイム回数の制限

1 試合のタイム数を下記とする。

【守備（監督、選手各）、攻撃時各】 3回

【延長】 各1回

「守備側タイムの回数制限（作戦タイム）」

①監督がタイムを取ってファールライン付近（ベンチを出る）へ行く守備（監督）タイム回数は、一試合に3回を限度とする。

②内野手（捕手を含む）が2人以上マウンドに集まった場合はタイムの守備（選手）タイム回数1回をカウントする。

③延長回（特別延長を含む）に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、2イニングにつき1回だけタイムを取ることが許される。監督が投手と協議する時は、ファールライン近くまで駆け足を励行する事とする。また、選手への指示についても、同様とする。（簡潔指示の励行）

ただし、同一イニングに①の行為を2回行った場合は、投手を交代させる。

交代した投手が他の守備位置につくことが許される。なお他の守備位置についた時は同一イニングには投手に戻れない。

「攻撃側タイムの回数制限（作戦タイム）」

① 監督がタイムを取っての打者及び走者に対する指示は、一試合につき3回を限度とする。

② 延長回（特別延長を含む）に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、2イニングに1回だけタイムを取ることが許される。

* 但し、守備側、攻撃側に責任がなく試合が中断（審判員が必要と認めるもの、選手の怪我、選手の交代など）した際に、打者及び走者を呼び集めることは回数としてカウントしない。

【注】 守備側（攻撃側）がタイムをかけているときに、攻撃側（守備側）の監督が選手を呼び指示した場合は攻撃側（守備側、監督）も回数1回をカウントする。

【注】 試合進行上、不必要と思われるタイムは認めない場合がある。（全神戸軟式少年野球連盟大会規定5 試合要領（16））

(11) ルールの解釈

公認野球規則を解釈するにあたり、アマチュア内規、全軟連競技者必携を用いる。

【注】 大会開催中に、大会規定に定められていない事案が発生した場合は、会長又は執行部が裁定を下す。その裁定に対して異議を申し立てることは出来ない。

□小学校等狭い球場使用時の安全管理を優先させる。

6. 禁止事項

- (1) ハンドマイク・メガホンの使用を禁ずる。
- (2) 選手・審判員に対する個人攻撃は厳禁する。
- (3) 故意に投球動作を妨げるような声援は禁止する。
- (4) 応援者（保護者等）による選手・審判員に対するヤジ・非難・指示等を厳禁する。
万一上記のことが発生した場合は、当該チーム代表者・監督の責任において直ちに注意し止めさせなければならない。
- (5) 本塁打打者と他者とのタッチは禁止する。
 - ①本塁打打者が一塁に着くまでに、他の選手・指導者とタッチした場合はアウトとする。
 - ②三・本塁間でのタッチは、打者の記録は三塁打とし、塁上のランナーの得点は認める。
 - ③一塁を通過するまでのタッチは、打者の記録はアウトとし、塁上のランナーの進塁は認めない。

【注】本塁とベンチ間で本塁打打者と攻撃側選手がタッチした場合は、得点は認めるが、非紳士的行為として本部又は審判員が警告をする場合がある。
- (6) 安全上、ノック中、投球練習中等ベンチ前での素振りは禁止する。

7. 罰則規定

- (1) 参加チームが、次の各号のいずれかに該当するときは、試合参加は認めるも、監督はリーグ戦の場合は1試合、トーナメント戦は大会期間中ベンチ入り出来ず、本部席にて待機させる。抗議は一切認めない。
 - ①開会式当日に、プラカード及びチーム旗を持参しなかった場合。
 - ②試合当日に選手登録書を忘れた場合。
 - ③集合時間に遅刻した場合。
 - ④担当審判員2名が集合時間に遅刻、不履行の場合。
(担当審判員が所属しているチームに対し)

【注】③④について、交通事情等により遅刻が発生する場合は、必ず試合会場に連絡しなければならない。
- (2) 参加チームが、次の各号のいずれかに該当するときは、代表理事会又は理事会で協議し、その指導者及びチームの処分を決定する。
 - ①登録されていない指導者・選手を出場させた場合。
 - ②本連盟が認めていない他の団体・連盟が主催する大会に参加させ本大会に支障を与えた場合。
 - ③試合中に試合を放棄した場合。
 - ④その他大会規定に違反・抵触した場合及び著しく大会の運営を阻害したと認められる場合。

- (3) 上記以外で罰則規定に定められていない事項について、執行部は、代表理事会又は理事会を開催して当該者を交えて事情を聴取し、その処分を決定する。決定された処分に対して異議を申し立てることは出来ない。

本大会規定の改正は、代表理事会又は理事会で行う。

2019年2月23日 改正

KSBL
西神戸須磨軟式少年少女野球連盟
Ver20190223